



男女共同参画推進室ニュースレター

olive・heart



児童サマースクール「医学部探検隊」



もうすぐ夏休みです。職員が養育する小学生の子どもを対象に、夏休み期間中にサマースクールを開催します。

医学部ならではのミニ医療体験をとり入れたワークショップです。学生のボランティアが楽しくサポートします。

対象：本学職員が養育する小学生1～6年生までの子ども

期間：平成23年8月18日（木）～19日（金）

時間：午前7時30分～午後6時30分

場所：香川大学医学部キャンパス内

募集人員：15名（定員に達し次第締め切り）

参加費用：一人一日あたり1,000円（保険料込）

申込方法：参加申込書を記入の上、医学部総務課職員係へ提出

申込書は医学部ホームページ等に掲載

申込期間：平成23年7月20日（水）～26日（火）17時



目次:

児童サマースクール	1
全学研修会 実施報告	2
香大っこサポーター養成講座	2
研究者をめざす	3
看護学科研修会	4
ベビシッター割引券	4

スケジュール

7:30～8:30	受付時間（自由時間）
8:30～12:00	午前のプログラム（開始式／宿題／休憩タイムあり）
12:00～13:00	ランチタイム
13:00～15:00	フリータイム（パパママ体験／ドクター体験）
15:00～15:30	おやつタイム
15:30～17:30	午後のプログラム（宿題／レクリエーション）
17:30～18:30	フリータイム（終了式／自由時間）



全学研修会 開催報告

【ハラスメントの被害者に ならないために】

- ・相手の私的領域に入らない、入れない。
- ・被害を受けたら声をあげる（警告を発する）。
- ・NOといえる組織、体制をつくるよう求めていく。
- ・他人の被害を見て見ぬふりをしない。
- ・相談できる相手や友人を見つける。

【ハラスメントの 被害者になったら】

- ・相手に対するNOを形に残す。
- ・証拠を確保する。
- ・信頼できる友人や同僚に相談する。
- ・大学の相談室に相談する。
- ・自分が強くなかなければと
思わない。

「安心して働ける・学べる安全な環境作り

～セクハラ・パワハラ・デートDV対応～



東京ゆまにて法律事務所の井口 博弁護士を招いて全学研修会を開催しました。今回は他3キャンパスにも同時配信し126名の教職員が参加しました。井口先生は、セクハラ
の被害者弁護や大学のハラスメント調査委員をされており、具体的な事例を紹介しながら、法的な枠組みや問題の解決、大学としての責務等についてお話いただきました。

セクハラは相手が「不快に思う」かどうか
が決め手になり、被害者は声を出すことに大きな勇気がいります。被害が極めて深刻なため、被害者が声をあげたあとのケアが必要です。加害者は、有力で有能に見られていることが多く、被害も継続して何年にも及ぶこともあります。特に、表面上同意があるように見える場合や加害者側が多くの証拠を出してくる場合、そのことに引っ張られず、断れないような「強要」がなかったかの事実を見極めることが求められます。被害者の相談や調査する際、二次被害の防止は重要。裁判では、刑事裁判の重罰化や民事裁判の高額化の傾向があり、PTSDの賠償等が認められています。

ハラスメントは、それを許す環境があるから発生します。構造の問題。職場環境に基づく労働災害として、雇用者の責任となります。組織によるもみ消しは、返ってことを大きくするので、迅速かつ正確な事実の把握と適正な手続き、再発防止が求められます。

この他、アカデミックハラスメントやデートDVについても話されました。

香大っこサポーター養成講座 開催報告

養成講座3では、「大学研究者の仕事と研究そして暮らし」について農学部 野村美加先生が、今、小学生になられた息子さんが1歳の時にアメリカから帰国したこと。一人子どもを連れて香大に赴任し、子どもさんの年齢が小さかった時にも、論文学会発表を行ったこと。子どもの笑顔が何よりの支えであったことなど話してくださいました。

養成講座4では、「子どもと楽しく安全に過ごすために」託児ボランティアあゆみ 梶ヶ谷真知子さんが、めずらしい木のおもちゃや絵本、ブロックなど、子どもたちが大好きな魅力的な物をたくさんご持参くださいました。託児で大切なのは、何より楽しく安全に過ごすこと。体調不良や危険を予測して未然に防ぐこと。子どもたちを過度に疲れさせないよう、子どものペースに合わせて遊んであげることの大切さを教えてくださいました。

養成講座5では、「共稼ぎ家庭のイクメンパパの取り組み」を香川県医療生活協同組合組合員活動部 岸本大助事務局長がお話してくださいました。第一子の死産を機に、かけがえのない子どもと一度しかない人生を大事にしたいと思い、忙しい妻に代わって、第2子の離乳期から1歳になるまで育児休暇を取られたこと。完璧な主夫業をこなしたイクメン実践報告として、子育ての中で健康志向になり、調味料や調理器具も吟味、テレビなしの暮らしを実践したこと、便利な育児グッズなど、子どもさんの成長した動画も交えてご紹介いただきました。

養成講座6では、「子どもの病気と看護基礎知識」としてへいわ子どもクリニックの増本師長さんが子どもの病気と病児の対応について、幅広くお話しくださいました。保育者自身、どの感染症にかかったことがあるか、予防接種を受けているかをきちんと知っておいて、病児と向き合うこと、手洗いうがい感染を予防する基本であることなど話されました。

保育士の大江さんが、実際の「病児保育はとぼっぽ」の取り組みを写真を交えて具体的に教えてくださいました。はとぼっぽは幸町キャンパスから一番近い病児施設なので、赤ちゃん連れの教職員も熱心に耳を傾けました。



5名のサポーターが修了しました。

インタビュー「子育て奮闘記～大変だけれど癒される毎日～」

今回は、香川大学イクメンの星、農学部 応用生物科学科、小川雅廣先生に子どもさんとの暮らしについてインタビューをさせていただきました。小川先生は、2004年から香川大学に赴任され、専門は生物資源利用学。広く食品の研究をされています。子どもさんのお話をされる時のやさしい笑顔がとても印象的でした。

香川大学農学部には7年前に赴任しました。ちょうど結婚した年で、神奈川の大学に勤める妻とは、3年間別居婚で過ごし、2週間に1度妻が会いに来てくれる生活を続けていました。妊娠を機に、子育てをどこでするか相談し、子育て環境と家族がいっしょに居られる時間を考慮し、香川で育てようと決めました。妻は高松で出産し育児休業の後、大学へ復帰し、週末以外は、父親である私と8か月の女の子との二人暮らしが始まりました。覚悟はしていたものの、夜泣きはする、熱は出す、肺炎にはなる等大変でした。毎日、保育園から研究室へ戻り、乳母車に子どもを寝かせ残った仕事を片付けていました。周りの先生方の理解と学生の協力もあり、多くの人に支えられて、なんとか乗り切ることができました。2歳からは、妻が岡山の大学に変わり、念願の親子3人暮らしになりました。妻は朝早く出勤するため、保育園の送迎は引き続き私の担当です。子育ては毎日が時間との闘いで、仕事にどう優先順位をつけるかが求められます。周りの理解や協力に感謝しながら、なんとか両立を図ってきました。



農学部 応用生物科学科
小川 雅廣教授

自分の為だけでなく、大学の構成員全員が 安心して子育てできる環境整備が必要



長女はようやく4歳になりました。9月にはもう一人生まれる予定です。子どもとの暮らしの中で、私自身、子どもに癒されることも多く、妻との関係性も変わりました。立ち合い出産で子どもが生まれてくるのを見た瞬間、「自分の赤ちゃんだ」という感じがして、父親として責任を果たして行きたいと心から思いました。

自分の為だけでなく、大学の構成員全員が安心して子育てできる環境整備が必要です。特に、体調を崩しやすい乳幼児や児童を時間に関係なく安心して預けられる保育園、病児保育

室、学童保育施設が学内または職場のそばにできることを願っております。機会がありましたら、これらの問題について皆さんといっしょに考えていきたいと思っています。

【主な研究】

低温細菌由来の酵素のスクリーニングと酵素の食品への応用
食品タンパク質の応用と未利用タンパク質資源の有効利用
オリーブ葉ポリフェノールの高品質化に関する研究

【あけぼの会】

＜あけぼの会＞は発足26年目、全国に4000人を超える会員と35支部、そして、70人の顧問医を擁する乳がん患者会です。全国すべての県に会員がいて、さらに国内だけでなく、海外（アメリカ、スペイン、韓国）に5人の会員もいます。

会のモットーは

「再び、誇り高く美しく」

全学研修会「研究へのアジェンダ ～ “生きる” を支える看護学への示唆～」

看護学は、様々な健康状態にある人の健康回復支援や生活支援を行うための学術分野です。医学部看護学科では、看護学研究のより一層の推進を図ることを目指しています。今回はワット隆子氏に患者側のニーズを社会活動に結びつけ、行動化し実行してきた過程をうかがい、病気の人が求める支援のあり方を考えて、研究への示唆を得たいと、この企画を致しました。

日時 平成23年8月3日(水) 14:00～17:00

14:00～15:30 講演

15:30～16:00 交流会(ティーブレイク)

16:00～17:00 意見交換会(まとめ)

講師 ワット 隆子 氏 【あけぼの会会長】

場所 看護学科4階会議室

対象 医学部看護学科教員及び希望する全学教職員

希望する大学院生

医学部付属病院医療スタッフ



講師紹介

ワット 隆子 氏 【あけぼの会会長】



自らの体験を生かして、乳がん体験者の全国的なセルフ・ヘルプグループ「あけぼの会」を組織。

会長として、乳がん早期発見の啓蒙のために乳がん月間、母の日キャンペーンなどを毎年、実施。機関誌『曙』、AKEBONON EWSなど印刷物の発行。ABCSS病院訪問ボランティア、など積極的な活動を展開している。

2006年8月現在の会員数4,350名、40支部、顧問医70名。
主な受賞、1987年エイボン女性教育賞。1988年保健文化賞。
2000年テレサ・ラッサー賞。

ベビーシッター割引券発行します！

本学では、昨年度に引き続き、財団法人こども未来財団の行っている「ベビーシッター育児支援事業」を利用して、被雇用者が在宅保育サービスを利用する際の料金の一部を助成し、仕事と子育ての両立を支援する「ベビーシッター割引券発行事業」を開始します。



【利用対象者】

本学に在職する職員

(非常勤の職員の方は社会保険加入者に限ります。)

【対象となる子の年齢】

0歳～小学校3年生(障害のあるお子様は6年生まで)

【使用条件】

- ・ 仕事のための家庭内における保育(家庭以外は利用不可)
- ・ 保育所等への送迎
- ・ 原則2時間以上の利用が対象となります。

【割引額】

1日あたり1,700円

利用日が決まっていなくても、

一度に3枚までお申込みいただけます。

申込書は男女共同参画推進室のWebサイトよりダウンロードできます。お気軽にお問合せください。



olive heart

香川大学男女共同参画推進室

香川県高松市幸町1-1
北5号館1階

電話：087(832)1055

内線：1055

FAX：087(832)1057

電子メール：

sankaku-room@ao.kagawa-u.ac.jp

ホームページ：

<http://www.kagawa-u.ac.jp/sankaku/>